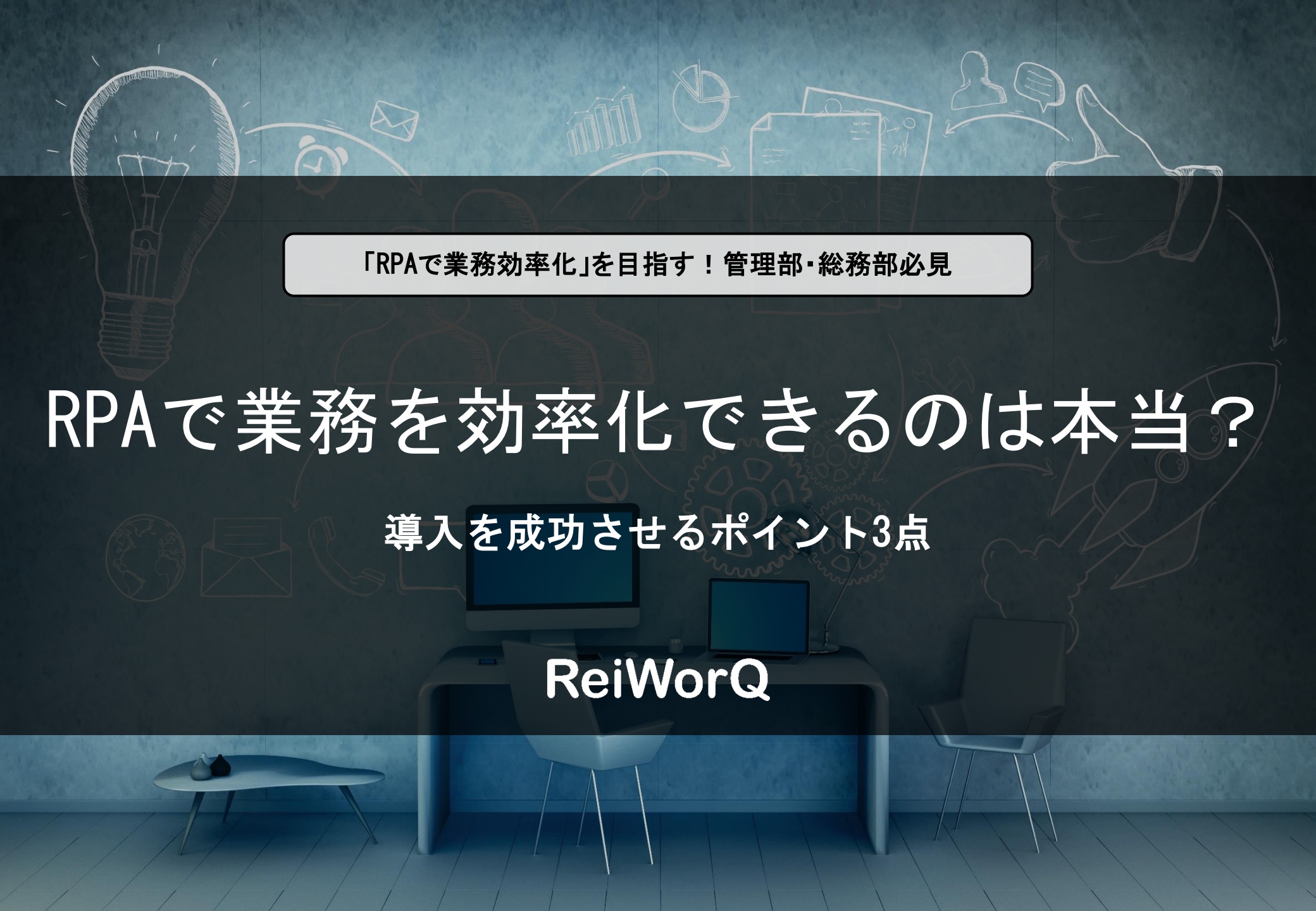




「RPAで業務効率化」を目指す！ 管理部・総務部必見

RPAで業務を効率化できるのは本当？

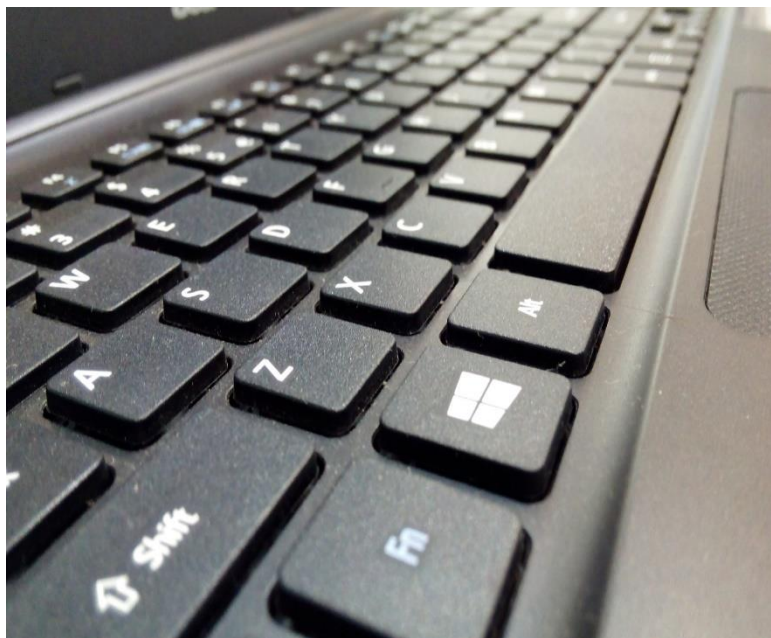
導入を成功させるポイント3点

ReiWorQ

目次

- はじめに
- RPAとは
- RPAニーズの拡大
- RPAの種類
 - ・ サーバーコントローラー型
 - ・ スタンドアロン型
- 従来の業務効率改善方法とRPAの違い
- RPA導入の成功ステップ
- RPA導入の失敗パターン
- RPAが向いている業務・人が向いている業務
- RPA導入を成功させるポイント
 - ・ 手間・時間がかかるけど、やらざるを得ない業務を探そう
 - ・ プロジェクトには対象業務のフローを
 - ・ 理解している人に参加してもらおう
 - ・ 費用対効果が高そうなものではなく
 - ・ 小さいものをコツコツ積み重ねよう
- スターティアレイズのソリューション「ReiWorQ」
 - ・ RoboTANGO
 - ・ Robo-Pat DX
 - ・ WinActor
 - ・ DX Suite
- おわりに

はじめに



近年、働き方改革として業務効率化を推進している企業が増加しています。
業務改善により、コスト削減や業務効率が向上すると、売上増加や社員満足度の向上に繋がるためです。

業務効率化の概念が浸透してきた今、業務効率化の方法として、ロボットによる業務プロセスの自動化が図れる「RPA」が注目されています。

RPA導入企業が増加している一方、バックオフィス業務でRPAを活用する企業が多いため、外部からは実際にどのようにRPAを業務に取り入れているのか、運用方法やメリットなどをイメージしにくいことも事実です。

今回はRPAとは何か。RPAで業務をどのように効率化できるのか。RPAの導入で社員の仕事はどう変わるのか。

RPAの導入を成功させるポイントも焦点を当て、説明していきます。

RPAとは

■RPAとは

「RPA (Robotic Process Automation)」とは、ロボットが業務プロセスの自動化することを指します。コンピューター上で人間が行う業務プロセスをロボットに記憶させ、業務を効率化・自動化してくれるソフトウェアです。

■RPAで効率化できる業務

データ入力や照合などの単純作業や、一定のルールに沿って行われる定型業務など、プロセスがマニュアル化されているような業務にRPAを導入すると、業務効率化の高い効果を実感できます。

■RPAの効果

- ①生産性向上……人はより付加価値の高い業務に集中
- ②品質担保……ヒューマンエラー予防
- ③業務の可視化…人とロボットの業務分担を明確化



RPAニーズの拡大

少子高齢化が進む日本では、生産年齢人口の減少による人材不足が懸念されています。このような状況のなか、企業は従来アウトソーシングや派遣社員などで補ってきた業務を、RPAなどのIT技術の活用で代替する取り組みを始めています。

Googleトレンド（下図）によると、2016年を境にRPAのニーズが徐々に高まっていることが分かります。また、MM総研が2021年1月に実施した調査（出展：2022年9月14日 [MM総研プレスリリース](#)）では、年商50億円以上の大手・中堅企業ではRPA導入率は37%となっており、2022年度には50%に到達すると言われています。

業務効率化や生産性の向上が求められる昨今、自動化により一定の品質でアウトプットできるRPAへの期待の高まりから、ニーズが拡大していると言えるでしょう。

グーグルトレンドより抜粋



RPAの種類



サーバー コントローラー型

「サーバー型」とも言われ、複数のPCと繋がる専用サーバー上でロボットを運用します。

サーバー上に1つRPAを導入すると、複数台のPCやアカウントへ同じ業務を適用させることができます。

反対に、サーバー上に複数のRPAを導入し、1台のPCに対して複数のロボットを稼働させることもできます。

サーバー型はスタンドアロン型に比べて、大容量である点が特徴です。

複数のロボットを稼働させる業務や、処理するデータサイズが大きい業務にも用いることができます。



スタンドアロン型

「デスクトップ型」や「RDA」とも言われ、既存のPCにソフトウェアをインストールして運用します。

ライセンス形式で提供されることが多く、RPAを導入した1つのPC上のみでロボットが機能するので、少人数や特定の業務に特化した活用に向いています。

セキュリティの信頼性が高いという特徴があり、機密情報を扱う場合には適しています。

他にも低コストで導入でき、柔軟なカスタマイズが可能なので、部署単位で導入後、全社に拡大する方法をとることもできます。

従来の業務効率改善方法とRPAの違い

従来の業務効率改善方法

従来の業務改善方法としては、主にソフトやシステムの導入をすることを指していました。
例えば、給与計算ソフト・会計ソフト、勤怠管理システム、顧客情報管理システムなどがあります。

RPAとの違い

RPAは、ロボットが代替する業務オペレーションで、定型業務の自動化に向いています。RPAはソフトやシステムの導入ではなく、アプリケーションの作成もできません。

一方、VBAやGoogle Apps Scriptなどのプログラミング言語では、自動化に加えてアプリケーションの作成も可能です。

業務効率化を目指して「RPAを活用する」ということは、業務プロセス自体を改善し、最適化することが求められます。その結果、時間的・費用的なコスト削減することができます。



RPA導入の成功ステップ



業務把握

- ・ 作業や行動に注目して、現状の業務を全て洗い出す
- ・ どの業務にどのくらいの工数を用いているのかを把握する



業務選択

- ・ どのような業務が削減できそうかを検討する
- ・ 削減する業務のうち、RPAで自動化するものを決定する



プロセス改善

- ・ RPAで自動化する業務と、付随して人の手で行う業務を分ける
- ・ RPAを活用するための業務プロセスを検討し改善する



シミュレーション

改善した業務プロセスの場合、どのくらいの人件費がかかるか
工数計算をして費用対効果を図る



トライアル

- ・ 部署単位でスモールスタートとして導入を進める
- ・ 改善や適正化をした後に、会社全体に浸透させていく

RPA導入の失敗パターン



「業務」に注目してしまう

経費精算、顧客管理、請求書作成など「業務」自体に注目すると、イメージが難しいでしょう。

「ファイルをダウンロード」「別ファイルに数値をコピー」「データ入力」など、「作業・行動」に注目することで、RPAを活用するイメージがしやすくなります。



「仕事がなくなる」と心配する

「自分の仕事がなくなる」「この業務は自動化できない」などのバイアスに注意しましょう。

「手間や時間がかかる単純作業」「手間がかかるため手付かずになっている業務」などを改善することで、削減できた時間でさらに質の高い仕事ができる時間や余裕が生まれます。



全工程を自動化しようとする

RPAは業務プロセスを自動化するものの、業務の全行程を自動化することには向いていません。

RPAで自動化する業務と、人の手で行う業務を仕分けし、ロボットを作成することがポイントです。RPAを最大限活用するため、必要に応じて業務プロセスを改善することもあります。

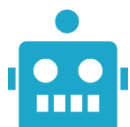


「人件費の削減」と考える

自動化することで、人件費が削減することは多々ありますが、「RPAの導入＝人件費の削減」ではありません。

対象業務の担当者を解雇するという発想ではなく、削減した時間で売上向上図ったり、本来すべき業務に集中することができたりします。

RPAが向いている業務・人が向いている業務



RPA が向いている業務

- ・ 給与計算
- ・ 販売管理
- ・ 集計
- ・ メール送受信
- ・ 営業日報作成
- ・ 反社チェック
- ・ 与信チェック



人 が向いている業務

- ・ 人の判断が必要
- ・ イレギュラーが都度発生する
- ・ 業務変更が多い
- ・ スマホやタブレットを利用する
- ・ 人の手で行っても作業時間がほぼ変わらない
- ・ 正確性や精度は不要

RPA導入を成功させるポイント①

**手間・時間がかかるけれど
やらざるを得ない業務を探そう**

作業や行動に注目して業務を洗い出したら、「手間」や「時間」がかかるけれど、やらざるを得ない業務は何かを検証しましょう。

例えば、定期的に発生するデータ入力や、専門のスタッフを配置できなかった単純作業など、自動化すると業務効率が向上する業務が該当するでしょう。

RPAのスムーズな導入には、現場のスタッフが率先して業務選定を行い、課題解決を図ることが成功の秘訣です。

RPA導入を成功させるポイント②

プロジェクトには
対象業務のフローを
理解している人に参加してもらおう

RPA導入を成功させる重要なポイントとして、対象業務の「フロー」「操作」を理解している人に参加してもらうことが挙げられます。

業務は日々変わっていくため、その内容を正確に把握している現場のメンバーが参加することで、効果の高いロボットを作成できます。

導入後の改善やトラブル発生時にも現場でスムーズに対応ができるようにするため、現場メンバーが主導となりRPA化を進めることが重要になります。

RPA導入を成功させるポイント③

費用対効果が高そうなものではなく
小さな成果をコツコツ積み重ねよう

RPA導入時には、部署単位などでスモールスタートし、全社単位へと浸透させていくことがポイントです。

RPA化した業務の結果を分析して、ロボットや業務プロセスの改善を繰り返し、最適化していく必要があるためです。

1つの業務で運用ができれば、対象業務に近い他の業務や他部署、全社へとRPAの活用範囲を広げていきましょう。その結果、費用対効果は無限に拡大していきます。

スターティアレイズのソリューション(ReiWorQ)

ReiWorQ

Reincarnate

生まれ変わらせる



Work

仕事



Quality / **Q**uest / **Q**uick

良質・追求・速い

 RoboTANGO

初心者向け
RPAツール

 RPA
Robo-Pat DX

現場向け
RPAツール

 WinActor®

業務システム向け
RPAツール

 DX Suite

大量の書類業務向け
AI-OCRツール



次世代型RPAのRoboTANGOは
1つのライセンスを複数の端末で
利用可能！より効率的にロボッ
トを作成・利用できます！

特徴

RoboTANGOは、デスクワークにおける単純作業を自動化することができるため、手作業よりも正確かつ効率的に行うことができます。

また24時間365日休みなく稼働できるため、働き方の改善や生産性の向上に期待できます。させることで、あらゆる業務を自動化することが可能となります。

1 複数のPCから利用が可能

1つのライセンスを切り替えて、**複数のPC端末**でご利用が可能です。

2 録画機能で簡単ロボット作成

自動化させたい業務の**操作を録画する方法**で、ロボットを作成することができます。

3 ご自身でロボット作成ができる

導入後までしっかりと**サポート**いたします。お客様ご自身でロボットを作成できるまで、**伴奏フォロー**※します。

操作画面（ロボット作成画面）



※「it takes two to tango」と絡め、「共に奏でる」という意味合いで「伴奏フォロー」という言葉を使用しています。



特徴

通常、人がシステム操作を行う場合はPC上に表示されている情報を目で認識しマウスとキーボードを使って適切な場所にデータを入力したり、保存や印刷などの処理を行っています。

ロボパットは高度な画像認識機能により人の目の代わりとなってPC上の画面を認識し、対象となる画面のマウス・キーボードの操作を覚えさせることで、あらゆる業務を自動化することが可能となります。

1 導入が簡単

中小企業でのご利用をターゲットに開発されたものであるため、**パソコンにインストールするだけで簡単に**ご利用いただけます。

2 パソコン1台～ご利用可能

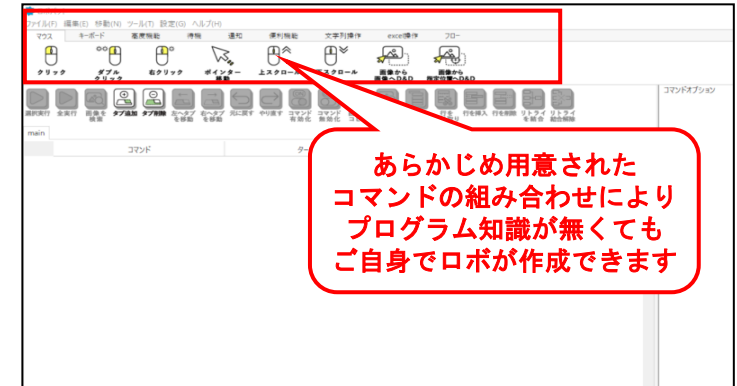
パソコン1台からの部分的な導入からはじめられ、**料金設定もご利用台数単位**なので、必要に応じたミニマムスタートが可能です。

3 ご自身でロボ作成ができる

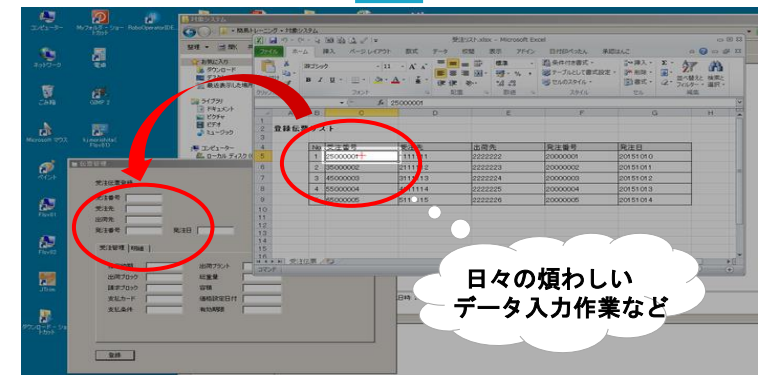
プログラム知識がなくても、あらかじめ用意された**コマンドの組み合わせにより、簡単に自動処理ロボを作成**することができます。

業務自動化のためのロボットをご自身で作成することが可能！
自動化できる業務の棚卸しからはじめてみませんか？

操作画面（ロボ作成画面）



パソコン上の業務処理をロボット作成で自動化！





導入数日本一のRPA

自動化できる業務の棚卸しから
はじめてみませんか？

特徴

フローチャート画面でドラッグ&ドロップ、クリック操作で編集可能。自動生成されたシナリオをグルーピングしたり、条件分岐を追加したりして、自動化する業務に合わせたきめ細やかなシナリオを編集できます。

記録したシナリオをそのまま実行することも可能ですが、動作条件を編集すると、他の場面でも使えるシナリオにすることができます。専用エディタによるGUI操作はとても簡単です。

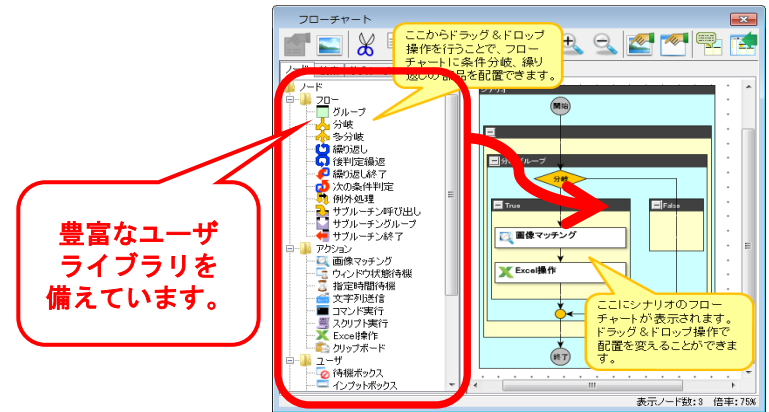
- 1 あらゆるアプリに対応！
- 2 特別な環境構築は不要！
- 3 ご自身でロボト作成ができる

Windowsで操作可能なソフトに対応。
IEやOffice製品、ERP、OCR、電子決済、個別の業務システムまで
あらゆるアプリケーションの操作が可能。

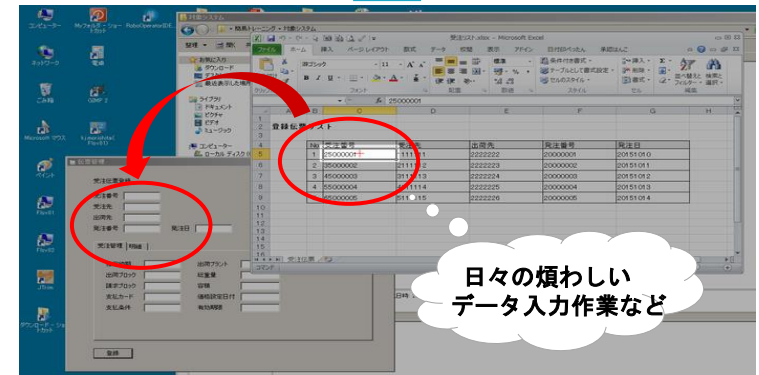
PCへインストールするだけですぐに使用可能です。
インストール作業も簡単です。

WinActorは**操作を録画し、自動でシナリオを生成**するのでプログラミングの知識は不要です。手動でのシナリオ作成も可能です。

操作画面（ロボ作成画面）



パソコン上の業務処理をロボト作成で自動化！



※WinActor®はNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。



識字率95%以上のAI-OCR

大量の書類がある業務を
見直しませんか？

特徴

従来のOCRでは「文字認識の精度が低い」「読取位置の調整が必須」
「チェック作業に時間がかかる」といった非効率な業務が発生する課題がありました。

AI-OCRは、従来のOCRにAIのDeep Learning（ディープラーニング）機能を取り入れることで、手書き文字の認識精度が向上し、非定型書類の処理・チェック作業の効率化を実現できるようになりました。

1 高精度な文字認識

様々なユーザーの**手書き文字**を高精度でデジタルデータ化。**乱筆文字**も高い精度で読み取りが可能。Deep Learningは使うほど賢くなります。

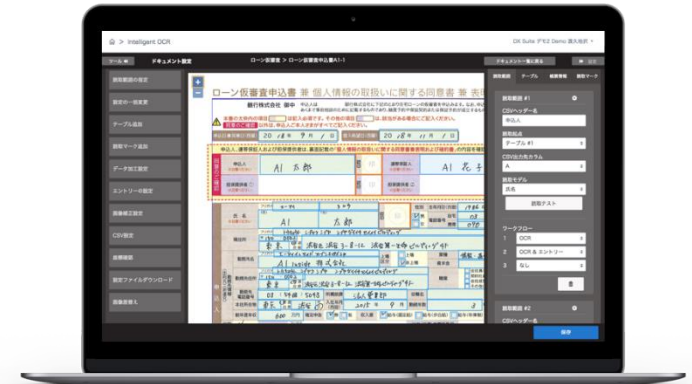
2 簡単な操作

読み取りたい範囲を指定するだけで、何枚でも自動認識。**解像度や傾きの補正、文字以外の除去**などを、バックグラウンドで自動処理します。

3 ワークフロー機能

データ登録作業の**AIサポート**、データ確認サポート、データ登録や確認の複数回チェックのサポートなど、データチェックの基本機能が充実。

操作画面



高精度の文字認識！



おわりに

業務効率化を推進する企業が増加していることと比例して、「RPA」を導入する企業やその効果を耳にするようになりました。

RPAは、主にバックオフィス業務で活用されています。例えば、給与計算、販売管理、集計、メール送受信、営業日報作成、反社・与信チェックなどは、自動化することができるので、RPAに向いている業務と言えます。

一方、人の判断を必要としたり、イレギュラーが頻繁に発生したりするような業務は、人の手で行う方が向いている業務です。

RPA導入の成功には、現場スタッフが主導となり業務把握から行っていくことで、効果的に運用することに繋がります。

総務部や管理部など、業務改善の方法を検討している方は、業務プロセスを自動化できるRPAの活用も考慮してみてください。



「RPAで業務効率化」を目指す！ 管理部・総務部必見

RPAで業務を効率化できるのは本当？

導入を成功させるポイント3点

お問い合わせ

スターティアレイズ株式会社

〒163-0919
東京都新宿区西新宿2丁目3-1 新宿モノリス19F
info@reiworq.com

ReiWorQ 専用サイト
<https://reiworq.com/>



本資料についてのお問い合わせ、ReiWorQ「RPAソリューション」に関するご相談は上記までご連絡ください。

本資料の無断複製（コピー、スキャン等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。